

こころ豊かな暮らしづくり・まちづくり

広報おおき

No.490
2022
令和4年

1月号

笑顔輝く年に

新春特別号 フルカラー



新年のご挨拶 2～3ページ

憧れのオレンジコートへ 春高バレーの切符を掴む 6～9ページ

写真：12月9日廣門神社大祭の鳥居払いを終え笑顔の横溝本村の皆さん（5ページに関連記事）

持続可能な協働のまちづくりを更に発展させる年に



新年明けましておめでとう
ございます。昨年末からは、
コロナ感染者も激減し、皆さ
ま方におかれましてはご家族
と共に、希望に満ちた健やか
新春をお迎えのことと存じま
す。また、日頃からの皆さま
のご支援・ご協力により、ス
ムーズに町政運営を行うこと
が出来ました。改めて、深く
感謝申し上げます。

引き続きコロナ対策が課題

さて、昨年もコロナ禍にお
ける町政運営となり、感染防
止対策や経済対策、ワクチン
接種などに優先的に取り組ん
で参りました。様々なイベン
トや町民活動などは中止を余
儀なくされ、町民の皆さまの

暮らしや飲食店をはじめとす
る事業活動にも大きな影響が
ありました。コロナ感染症の
収束が見えない中、今年も感
染予防対策、町民の皆さま・
事業者の皆さまの支援などコ
ロナ対策にしっかりと取り組
んで参ります。また、町民の
皆さまのご協力により、これ
までは最小限の感染者に止め
ることが出来ました。医会の
先生方のご協力によりワクチ
ン接種は順調に進み、65歳以
上では94%以上の方が2回の
接種を済ませています。今年
は3回目の接種を順次ご案内
出来る見込みでございます。
しかし、新しい変異株が流行
の兆しを見せており、インフ
ルエンザの同時流行も心配さ
れます。町民の皆さまには引
き続き感染対策の徹底をお願
い致します。

ICT元年としての

大きな一歩

一方でコロナ禍において、
働き方などこれまでの社会の

あり方が見直され、ICT環
境整備が大きく前進しまし
た。本町においても、9月4
日に念願の光回線が開通し、
小中学校全児童生徒に対する
学習用タブレットパソコンの
購入や電子黒板、公共施設へ
のWeb会議システムなどの
ICT環境がほぼ整うなど、
ICT元年と呼べる大きな一
歩を踏み出すことが出来まし
た。今年には更にコロナ後の新
しい社会づくりを目指して参
ります。

4年連続で豪雨災害

昨年は梅雨末期の豪雨災害
は免れたものの、8月11日か
らのわずか4日間で福岡県の
年間降水量の4割を超える、
750ミリの記録的な豪雨と
なりました。平成30年から4
年連続で山ノ井川が氾濫し、
流域を中心に家屋の浸水被害
や農業被害などが発生しまし
た。頻発する豪雨対策とし
て、福岡県は令和元年度から
山ノ井川浸水対策重点地域緊

急事業に着手し、堤防^{かさ}上げ
工事や正原橋架け替え工事が
急ピッチで行われています。
5年連続の被害が出ないよう
に、一日も早い堤防嵩上げ工
事の完了を関係機関に要望し
て参ります。

防災意識を高め

日頃の備えを

気候変動による夏の猛暑や
集中豪雨はこれまでの常識を
超えるもので、その影響はも
はや新たな局面を迎えていま
す。これまでの常識にとらわ
れず、町を挙げての防災対
策、日頃の備えが欠かせませ
んが、特に住民の皆さんに防
災意識を高めて頂くことや、
地域の繋がりを強め、いざと
言うときに協力し合える地域
コミュニティの役割が重要に
なっています。また、脱炭素
社会の構築に向けて、先ずは
役場周辺のカーボングリーッド
計画を推進して参ります。

行政区から自治区へ移行

今年には行政区から住民自治
組織である自治区への移行を
お願いし、持続可能な協働の
まちづくりへの大きな一歩を
町民の皆さまと踏み出して参
ります。

人口減少・少子高齢化社会
の到来による様々な地域課題
や気候変動による災害の頻
発、コロナ感染症への対応な
ど、町政の課題は山積してい
ますが、町民の皆さまとこれ
まで培ってきた協働を更に発
展させ、次の世代につけを残
さない、いつまでも住み続け
られる持続可能なまちづくり
を推進して参りますので、引
き続き皆さまのご支援とご協
力をよろしくお願い申し上げ
ます。

結びに、令和4年が町民の
皆さまにとりまして、素晴ら
しい年になりますことをご祈
念申し上げ、新年のご挨拶と
致します。

大木町長 境 公雄

将来を見据えた議会の構築に向けて！



新春をお迎えになり、町民の皆さまには希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

町民の皆さまには、日頃より町議会に対し温かいご支援とご協力を賜り、心から厚く感謝申し上げます。

1947年（昭和22年）日本国憲法と同時に施行された地方自治法も、施行より70有余年が経過しました。この間、住民に最も身近な市町村の二元代表制の一翼を担う議決機関として、今日の地方分権の大きな流れの中でその役割の重要性も増してきております。

戦後復興から高度経済成長期、バブル経済を経て、世界

に類を見ない経済大国となった日本は、バブル崩壊、金融危機などの経済の低迷期を経験。そして、本格的な少子高齢社会に直面し、経験したことのない困難な時代を迎え、今また新型コロナウイルス感染症という新たな脅威にさらされています。

直近の国勢調査では、本町の人口もついに1万4千人を割り込みました。過度に不安視することはありませんが、議会や行政サービスの維持をはじめ、複雑多様化する課題や災害対策などに十二分に備え、取り組みを強化していく必要があります。限りある行政資源を有効に活用し、町民の皆様のご理解とご協力のの上に、それぞれの山積した課題の優先順位を明確に示し、住民サービスの低下を招かぬよう努めなければなりません。

議会では、各議員がその持てる力を十二分に発揮し、知恵を出し合い、コロナ禍にお

いても一人でも多くの町民の皆さまの声に耳を傾け、その声を“力”として、住んで良かった、住み続けたい大木町として選んでいただける施策づくりを展開することで、活力に満ちた発展し続ける大木町を希求してまいります。

さて、コロナ禍において議会活動が見えにくい状況ではあります。本町議会では定例会において子育て世代にも気軽に傍聴いただけるよう、ボランティアの皆さんの協力を得て、事前申し込みによる託児受け入れも実施しています。どのような議論を経て政策の決定がなされているのか、間近に感じていただきたいと思っています。

その他の情報提供の手段として、庁舎一階で議会開催中のモニター放送、Facebookによる情報発信や一部議会広報のカラー化にも取り組んでおります。さらに本年は町民の皆さまの協力による議会モニター制度についても

検討を進め、政治参画の機会を提供できればと考えております。

私たちの任期も残すところ1年余りとなります。改選を控える年にもなりますので、将来を見据えた議会の在り方を全議員で熟慮し、協議を進めながらより良い議会の姿をお示しできるよう努めて参ります。今後も議会の活性化を推進し、議会議員としての責任を自覚し、執行部との議論を深め、町民の皆さまの期待と負託に応えられるよう全力で取り組んでまいります。

結びに、本年が町民の皆さまにとりまして、より実りある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。

大木町議会議長 中島 和正

議会報告会・意見交換会を開催します。

●日時 2月19日（土）15時より

●場所 こっぽーっとホール

※託児あり（未就学児） 締切 2月10日（木）

新型コロナウイルス感染状況によっては中止する場合があります。

オンライン開催にする場合は、広報にてお知らせします。

☎議会事務局 ☎0944-32-1249

2021年の出来事

1 月	
株式会社アステムと包括連携協定	 ①
2 月	
水道料などにバーコード決済導入	
大木町公式 LINE スタート	
3 月	
町内 3 小学校トイレ改修工事完成	 ②
木佐木小学校増築棟完成	 ③
4 月	
機構改革 役場の窓口が変わりました	 ④
「G I G A スクール構想」に基づく町立小中学校に整備された 1 人 1 台の wifi 端末も本格的な運用開始	
5 月	
新型コロナワクチン接種 高齢者から接種開始	
7 月	
自治区移行の説明会が各地区でスタート	 ⑤
8 月	
東京 2020 パラリンピック聖火リレー 聖火フェスティバル	 ⑥
令和 3 年 8 月の大雨	 ⑦
大木町子育て応援・地域応援事業「おおき子育て応援商品券」を町内 18 才以下の子どもがいる世帯へ配布	
9 月	
光回線開通	
10 月	
中学生が政策提案	 ⑧
大木町かんけい案内所オープン	 ⑨
11 月	
こっぽーっと図書館カフェオープン	 ⑩
12 月	
子育て世帯等臨時特別支援給付金（10 万円）給付開始	



年末の伝統行事「しめ縄」づくり

毎年12月9日に行われる「廣門神社大祭」の際に掛けられる「しめ縄」を作る工程を取材に横溝本村へ行ってきました。

横溝にある廣門神社は、横溝本村と中島の妙現でお世話をしており、7年に1度「廣門神社大祭」を行う当番が回ってきます。

大祭で作成するしめ縄は、全部で5つ。皆さん7年前の記憶をたどりながら、作業を進めていきます。



ワラを手前にねじり合わせていくと縄に!



まずは、柔らかくしたワラを振ったり、梳いたりして、余分なワラを除きます。次に選別したワラを縛っていきま。神事で使うしめ縄は、右にねじりながら「左な

い」で作っていきます。細かい手はベテランの方々。「左ないは手を手前に引きながら編むから、難しいもんね。」と言いつつも、スイスイと縛っていきます。



声を掛け合いながら編んでいきます



はみ出したワラを丁寧にカット

縄え終えたしめ縄は、はみ出したワラをカットし、メの子を取り付け、完成。神社へ飾り付けました。

今年大木町に引っ越してきた参加者の方は、「7年に1度の地域の行事に、引越して



しめ縄の子

きた年に関われてよかったです」と話してくれました。

普段、なにげなく見ている神社のしめ縄。作る工程を初めて見て、大木町にある皆さんの神社のしめ縄も毎年、こうして地域の人が協力して作っているんだろうなと思いました。皆さん、お互いを下の名前で呼び合い、笑顔で作業されているのが印象的でした。

今年も
たくさんの
大木町の魅力に
出会えますように!



地域おこし協力隊
こだま 小玉みちる

憧れのオレンジコートへ

春高バレーの切符を掴む

1月5日から9日の日程で、東京体育館で開催される第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会（通称：春高バレー）。インターハイ、国体と並び、高校三大会のひとつと言われる本大会の出場切符を、大木町出身の高校生3人が掴みました。今号では、3人のインタビューとバレーの原点でもある大木町ジュニアバレーボールクラブを特集します。

よしたけみか
吉武美佳さん



ています。

金蘭会高校（女子大阪府代表）の3年生。蛭池出身で身長181センチ。

金蘭会高校は11年連続11回目の出場となる強豪校。67回、70回、71回大会では優勝もしています。

吉武さんはU18世界選手権大会の日本代表にも選出されています。

高校に進学してからは大阪での寮生活。大木町にはこの3年間で5、6回しか帰っていないとか。ポジションは攻撃の中心となるレフト（アウトサイドヒッター）。全体練習と個人練習で毎日4時間以上練習に励んでいます。



▲ 体育協会 30 周年記念式典



ジュニア時代

小学3年生の時に先輩に誘われ、兄もやっていたこともありバレーを始めました。身長が高かったこともあり、ポジションは今と同じレフト（アウトサイドヒッター）でした。



▲ 前列左から2人目が吉武さん

一番の思い出は小学6年生の時に出場した小学生バレーボール九州大会です。5年生の頃から同じチームでやってきて迎えた最後の大会だったので、とても印象に残っています。

ます。今、女子ジュニアの監督をされている高山コーチが体育館ではとにかく厳しかったのですが、コート外では楽しませてもらいました。

バレーの魅力

バレーの楽しさ、魅力は何と言っても1球に対してみんなが喰らいついて、思いをつないでいくところです。大木町のジュニアバレーも部員が少なくなっています。バレーはとても楽しいスポーツなので、少しでも興味がある方は是非一度見学に来て欲しいです。

今後の抱負

将来の夢

春高では日本一を目指して頑張ります！これから先も、バレーボール選手として活躍したいです。



田中萌さん

たなかめぐみ



▲ 福岡県大会優勝！田中さんは中央8番



八女学院高校（女子福岡県代表）の3年生。福土出身で身長162センチ。

八女学院高校は今回が初出場。ついに憧れのオレレンジコートでプレイができると選手達も燃えています。平均身長はそこまで高くないながらもスピードがチームの持ち味。田中さんは現在寮生活で、ポジションは吉武さんと同じく、攻撃の要となるレフト（アウトサイドヒッター）。早朝、夕方と練習の毎日。一日8時間練習することも。



ジュニア時代

小学3年生の時に友達に誘われ、姉もやっていたこともありバレーを始めました。泣き虫だったので、涙を流しながらでもボールを追いかけていました。とにかく上手になりたい一心でした。

一番の思い出は小学6年生の時に出場した小学生バレーボール九州大会です。とにかく練習がきつかったです…。

バレーの魅力

バレーの魅力はみんなで楽しくやれることです。同じ目標に向かって仲間と一緒に頑張って、みんなで取った一点は格別です。勝った時はチーム全体で喜べますし、この達成感が一番の魅力ですね。



▲ Jr バレー時代のチームメイトと



▲ Jr バレーの頃。前列左から4人目が吉武さん。5人目が田中さん。

今後の抱負

将来の夢

将来の夢は作業療法士です。ゆくゆくはバレーを子どもたちに教えられるようになりたいです。



バレーは楽しいときも楽しくないときもある それを超えて強くなる

津留翔吾さん



東福岡高校（男子福岡県代表）の3年生。大角出身で身長169センチ。

東福岡高校は11年連続13回目の出場となり、昨年度優勝を誇る強豪校。67回、68回大会でも優勝をしています。

津留さんのポジションは守備の要であり、攻撃の起点でもあるレシーバーです。週7回3時間。土日も練習に励んでいます。



▲第73回春高優勝時。津留さんは最後列左から2人目。

ジュニア時代

姉がやっていたので、年頃からバレーを始めました。ジュニアの頃はセンター（ミドルブロッカー）をしていて、小さいながらもレシーブでは負けたくないと思っていました。上手な人を見て真似をしていました。



▲Jrバレーの頃。後列左から3人目。

一番の思い出は、男女のジュニアバレー合同でクリスマス会をやったこと。それと

小学生バレーボール九州大会に行ったことです。

ジュニアの監督やコーチが、本当に真剣にバレーを教えてくれたこと、自分たちのために時間を作って合宿、レクリエーションをしてくれた事もとてもいい思い出です。

バレーの魅力

最初は怖いと思うけど、慣れてきたらとても楽しいスポーツです。バレーボールは1人じゃなくチームでやるから、相手への思いやりも勉強できます。九州大会・全国大会などに出演したら、さらに面白さが増して、とても楽しいです。お互い頑張りましょう！

今後の抱負

将来の夢

将来の夢は体育の教員になることです。

大会初戦

東福岡高校…初戦の2回戦で札幌藻岩高校（北海道）と東亜学園高校（東京）の勝者と対戦
（1月6日 15時～）

金蘭会高校…初戦の2回戦で松山東雲（愛媛）と旭川実業高校（北海道）の勝者と対戦
（1月6日 11時30分～）

八女学院高校…1回戦で國學院栃木（栃木）と対戦
（1月5日 16時50分～）

ボールを持って
人を鍛える



▲ 結成当時の様子。前列中央が徳永監督

大木町はバレーの町として名を馳せていたにも関わらず、町内にジュニアチームが無かったため、昭和62年10月に小学4～6年生の女子30人で大木ジュニアバレーボールクラブは結成されました。当初、監督を第12回春高バレー出場選手だった徳永豊さん。コーチを井上泰秀さんと岡崎和美さんが務められ、練習の過程を大切にし、バレーを通じて人間性の涵養を指導方針として、活動を始めました。そして、結成7か月で県大会に出場を果たすなど、目覚ましい活躍を続けました。

大木ジュニアバレーボール男子



▲ 素敵な笑顔の岡山監督と子ども達

監督：岡山 鉄也さん

(監督歴4年目)

その前はコーチとして11年程指導)

年によって多い少ないはありますが、大体部員は10人前後でした。現在は8人(6年生:1人、5年生:5人、4年生:1人、2年生:1人)で活動しています。

長年指導していると子どもたちの変化を感じます。昔に比べて、上下の年齢の子達と遊ばないように思えます。

バレーを通じて、子ども同士のつながり・親同士のつながり・親子のつながりの醸成を意識して指導をしています。

ここで得た仲間が財産になるので、気軽に話せる、顔見知りになる仲間作りを大切にしています。

大木ジュニアバレーボール女子



監督：高山 勉さん

(監督歴4年目)

その前はコーチとして長年指導)

昔は人数も多かったが、少子化の影響等で部員が減少しています。

彼女たちが在籍していたころは部員が11人いましたが現在は5人(6年生:1人、5年生:4人)です。

礼儀を重んじる指導をしています。普段の荷物や靴の整理などがプレイにもめますから。

田中さんらOBが指導に来てくれるのはとても嬉しいです。



鬼コーチだったとは思えない、温和な印象の高山監督。

一緒に楽しく
バレーをしよう!

大木ジュニアバレーボール女子

大木ジュニアバレーボール男子

メンバー募集中!

●練習日 火・木曜 18時～20時30分
土・日曜 9時～12時30分

●場 所 大莞小学校 体育館

◎大木ジュニアバレーボール女子 会長 廣松

☎ 090-5921-5340

◎大木ジュニアバレーボール男子 監督 岡山

☎ 090-4996-0970





あなたのチカラが必要です 消防団員募集

夜間の災害を想定した実践訓練のようす

① 総務課 0944-32-1035



なかしま とよき
中島 豊記 団長

皆さんのチカラが必要です。
やりがいのある消防団を
ぜひ一緒に作りましょう！

災害は、いつどこで発生するか分かりません。災害発生時に地域のことをよく知っている消防団は心強い存在であり、その活動は広く皆さんの信頼を得ています。

災害が頻発する近年において、消防団に寄せられる期待や役割はますます大きくなっていますが、団員数は全国的に減少傾向にあり、ピーク時の半分以上に落ち込んでいます。地域の防災力の低下が懸念されており、消防団員の確保は大木町でも大きな課題となっています。

「大切な人やものを守る」ために「あなたのチカラ」が必要です。大木町消防団は、災害が起こる「その時」に備えて、地域の事をよく知る消防団員を募集しています。



令和4年

大木町消防出初式

- 開催日 1月9日(日) 9時30分～
 - 場 所 木佐木小学校運動場
(雨天の場合は、総合体育館)
- ※消防団員による勇壮な馬簾廻しをはじめ、大莞若獅子まとい太鼓、大木中学校吹奏楽部の演奏が披露されます。

▼資格

大木町内に居住または勤務する年齢 20 歳以上の人（男女を問いません）

▼消防団員の身分

非常勤特別職の地方公務員

▼消防団員の処遇

年報酬・手当の支給、
退職報償金（勤続 5 年以上の場合）

▼男性団員の活動内容

火災・風水害時の防御活動、災害予防活動、警備警戒活動、普通救命講習、機械器具の点検など

▼女性団員の活動内容

火災予防に関する広報、応急手当訓練の指導、防災教育や啓発活動など

消防団

仕事に活かされている消防団活動

田中 聖志さん

第2分団第1部／平成31年度入団

私は、リハビリ関係の仕事をしています。ある日、たまに消防団経験をされた患者さんに私が団員であることを伝え、口数の少ないおじいちゃんが、「大会は何番員ね？俺は昔ね…」と笑顔で話され会話が弾みました。消防の話で盛り上がると思わず、入団当初は、仕事との両立が大丈夫か心配でしたが、逆に今では、仕事にとっても活かされています。

消防団活動で印象に残っている事は、初めて火災現場に出動した際に、私自身、とても不慣れでパニックになった点で、この時に、改めて日ごろの訓練活動の大切さを痛感しました。消防団に入団したことで、年齢がひと回りもふた回りも離れた先輩方と知り合うことができ、とても可愛がっていただいています。これからも頑張ります。

大木町のよさを知る機会に

北原 真由美さん

本部／令和3年度入団

結婚を機に、福岡市から大木町に転入し、夫の友人に誘われて入団しました。入団後、同年代の方と知り合うことができ、また、地域の事を知る機会になり、入団してよかったと思うことばかりです。女性消防団では、一人暮らし高齢者の方を訪問して火災予防の確認を行っています。訪問で出会う高齢者の方がとても元気に過ごされているのも、この町が住みやすい地域だからだと思います。地域の助け合いやつながりがあるからとても皆さんいきいきと過ごされていると実感しています。都市部にはあまりない地域の触れ合いがあって、町のよさを知る機会にもなっています。

活躍する消防団員の紹介



やりがいのある消防団活動

松枝 佑起さん

第1分団第1部／平成28年度入団

家業のいちご栽培を継ぐために福岡市から帰郷しました。いちご栽培の仲間に誘われ、地域のためにできることであれば戸惑うこともなく入団しました。令和元年度に部長を務め、その年に町のポンプ操法大会で優勝できたことが一番の思い出です。部長1年目で団員をどうやってまとめるか悩むこともありましたが、先輩や後輩の団員と一丸となって練習し、本番当日に練習以上のタイムが出た時には、本当に感動しました。消防団は火災現場に出動して人の命に関わり、危険な作業をすることもあるため、厳しい訓練もありますが、その反面、消防団活動に参加したことによって出会える先輩後輩との関りも深まります。消防団活動は、やりがいがあります。

活動に参加しやすい雰囲気づくりに感謝

西田 達哉さん

第3分団第2部／平成24年度入団

入団して1年目に福岡県消防ポンプ操法大会の選手として出場しました。操法大会の練習や消防団活動は、きついとか大変などのイメージがあるかもしれませんが、そのようなことはありませんでした。

それは、他の団員の皆さんがとてもいい雰囲気を作ってくださっているおかげだと思います。入団する際も、先輩方が活動に行きたくするような雰囲気作りをしてくれたので、戸惑いもなく入団でき、9年経った今でも楽しく活動しています。また、仕事や家族の用事などで活動に参加できなかった時も、お互いに助け合い「ホースを片付けてくれてありがとう」「助かったよ」「お世話かけたね」と基本的なマナーかもしれませんが、必ず感謝の気持ちを伝え合っている事も、気持ちよく活動できている秘訣だと思います。おかげで、消防団の活動をしながらでも仕事と家庭とのバランスがうまくとれています。

地域の事を話し合える 場づくりに

☎まちづくり課 地域づくり推進グループ
☎0944-32-1120

町では、「持続可能な地域づくり」に向けて、「行政区」から住民自治組織「自治区」への移行を推進しています。

各地区では、行政区長を中心に、それぞれの地区の活動をしやすく、また住民の皆さんが参加しやすい体制づくりを懸命に協議されています。

先月に引き続き、説明会などで出された主な質問を通じて、自治区移行の必要性について考えます。



花の植栽や草刈り作業などの活動によってみんなが気持ち良く過ごせる景観づくりにつながっています。そしてこのような活動では、住民同士の交流とともに、実は、地域における問題などを話し合える機会にもなっています。(写真は上牟田口北・南区)

◆住民自治組織(自治区) 移行説明会における 主な質問

Q 自治区の運営ってどうするの？

自治区の運営は、地域の住民同士の交流や助け合いを目的に、問題解決のための話し合いによって、次の点に考慮しながら運営すると誰もが参加しやすい組織になると考えられます。

- ①わかりやすい規約(ルール)づくり
- ②住民のみんなで意見交換ができる機会づくり
- ③みんなで分担して無理のない役員体制づくり
- ④みんなが参加しやすい行事計画と予算・決算の報告

Q 自治区移行で住民の費用負担が増えるのでは？

自治区移行は、新しい活動をしていただくことが主目的ではなく、これまでの活動を引き続き行っていくための体制づくりや行事計画について地域で話し合っていただくことをお願いしています。

これまで地域に交付していた町からの補助金や報償費をまとめた「自治振興交付金」はこれまでの金額から減らすことなく交付するため、自治区移行に伴う新たな費用負担は発生しないと考えられます。ただし、新たな事業を実施する場合には、活動内容によって費用負担が増えるかもしれません。その場合は、区の総会などで皆さんとの話し合いのもとで決められることになります。

Q 自治区移行で町からの業務が増えるのでは？

自治区移行によって、新しいことをしていただくというより、各地域における公民館活動、資源ごみ分別収集や一斉清掃などの環境美化活動、水路の管理など活動を引き続き継続していただきたいと考えています。

いつまでも安心して住み続けられる地域にするためには、人と人との「つながり」を強くしていくことが最も重要だと考えていますので、引き続き地域活動の継続ができる体制づくりをお願いしています。



まちづくり課 主幹

きたしま ひであき
(大溝校区担当) 北島 秀啓

自治区移行の
話し合いそのものが
「自治活動」

自治区移行の役員会などに
伺うと、区長を中心として地
域の皆さんが、これからの役
員体制や地域の行事、想定さ
れる地域の問題の解決方法を
一生懸命に協議されています。
この話し合いそのものが「自
治活動」だと思えます。自治
区移行がまず「自分の地域
をよくするためにどうしたら
いいか」という事を考えるきつ
かけづくりになればと思いま
す。

校区の 取り組み紹介

☎まちづくり課 地域づくり推進グループ
☎0944-32-1120

町内には3つの小学校区（大溝・木佐木・大莞）があり、校区コミュニケーションセンターを中心にした交流や防犯対策、特技を生かした作品の展示など校区のコミュニケーションを図る取り組みが行われています。

今日は、各校区の取り組みの一部をお知らせします。

木佐木校区

子どもたちの声で不審者対策を強化 ～パトロールの声に木佐木小学校児童の声を収録～



6人の児童が音声収録に協力してくれました。



木佐木校区活性化協議会では「不審者を見つけたら110番通報を」と毎月呼びかけています

木佐木校区活性化協議会では、下校時の子どもたちを不審者から守るために、毎月1回防犯パトロールを行っています。そのパトロールで、子どもたちの声による不審者対策を強化しようと、11月から、木佐木小学校6年生の児童の声でパトロールが行われています。

児童の声による防犯の呼びかけが始まると、下校中の子どもたちがパトロール車に6年生の児童が乗っているかのぞき込んだり、手を振ってくれたりしていました。「子どもたちの声は大人の私たちに元気を与えてくれます。今後も子どもたちと一緒に校区の防犯対策に努めたい」と、同協議会の古賀知文安心安全部会長が話されていました。

大溝校区

石丸山公園で今年も「Holy Night」



「おかえりなさい」の気持ちを込めたクリスマスイルミネーションも今年で8回目。12月4日には大溝校区活性化委員会のメンバーが電飾の取り付けをしました。それぞれの持ち場での作業は手慣れた感じで進めていましたが、新しく飾り付けをする所は、かなり時間をかけて慎重に作業していました。今年も皆さんが集まっての点灯式はありませんでしたが、1月14日まで、17時～21時に点灯しています。堀に映って2倍に輝くイルミネーションをお楽しみください。

(裏表紙に関連記事があります。)

大莞校区

大莞秋の文化祭開催



平成29年から大莞コミセン主催事業のひとつとして始まった大莞校区の文化祭が、11月29日～12月5日に開催されました。昨年は新型コロナウイルス対策で中止しただけに、「今年は作品が集まるじゃろか」と心配したそうですが、いざ蓋を開けてみると、大莞コミセンいっぱい作品が集まりました。もともと大莞校区は文芸や美術関係の文化人を輩出した土地柄のせいか、力作揃い。最終日にはだご汁も振舞われて、幕を閉じました。